

HTML TIPS & TRICKS

第 10 回

誰よりも早く 最新のHTMLを使ってみよう

藤井幸孝 白畑真

今、最も試してみたいテクニックは「ダイナミックHTML」だ。でも、規格の統一がなされていない上にスクリプトの知識が必要とあって、実際に使うにはハードルが高い。だからといって黙って見ているだけじゃつまらない。こんなときこそこのコーナーがある。今月も、誰にでもできるダイナミックHTMLからスタイルシートまで必ず役立つTIPSとTRICKSを満載でお届けする。

このコーナーを楽しむために

最新のHTMLを使う際に、どうしても避けて通れないのがWWWブラウザの互換性の問題だ。そこでこのコーナーでは、TIPSごとにブラウザの対応状況をアイコンで表している(9月10日現在)。これを参考に、使用するWWWブラウザを選んでほしい。



インターネットエクスプローラ3.0以上



インターネットエクスプローラ4.0以上



ネットスケープナビゲーター3.0以上



ネットスケープナビゲーター4.0以上



10月号「HTMLパズルに挑戦しよう」の解答

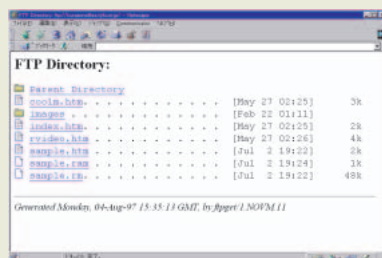
今回のパズルは「あまり使う機会がないHTML」だけに、別の意味で難しかったかもしれない。これですべてマスターしたと思っても、まだまだ知らないタグが存在する。これがHTMLの奥の深さだ。特に、次から次へと登場する最新のタグは要チェックだ。それでは「リンクを制する」の解答を発表しよう。



ANSWER ① パスワードが必要なFTPサイトにログイン!

QUESTION 1の画面に注目してほしい。通常ならURLが表示される「場所」の欄が空白になっているはずだ。そう、ここに解答が表示されるから、あえて消しておいたのだ。つまり、URLの中にユーザー名とパスワードを入れるということだ。これさえ分かれば、<A>タグを使ってごく普通のリンクを設定すればOKだ。ユーザー名が「tips」、パスワードが「tricks」なら答えはこうなる。

```
<A HREF="ftp://tips:tricks@ftp.impress.co.jp">
user [tips], come on and login ftp</A>
```



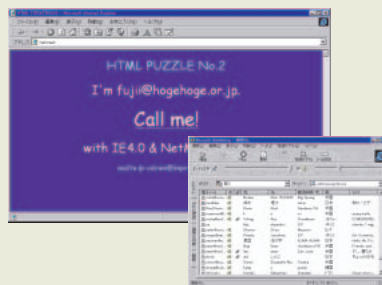
正解者の方々：相澤治郎さん、ガンちゃん@つくば工科
高校1年さん、ほか



ANSWER ② インターネット電話をかけろ!

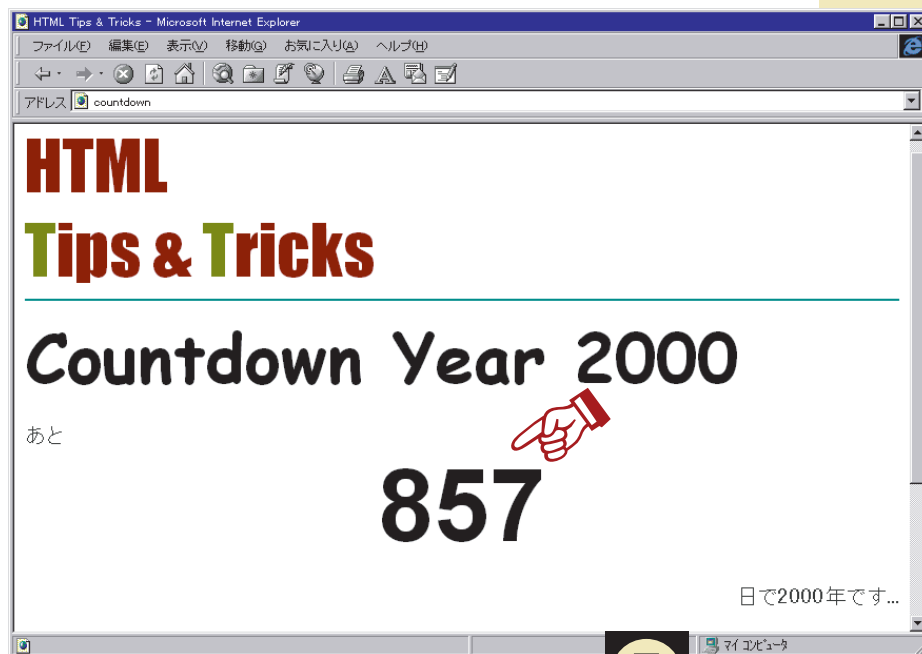
なんと、このコーナー始まって以来の解答者ゼロ。「こんなこともあるものか」と、編集部では驚きの声が上がっている。理由はIE 4.0の普及が今1つということか。その上、ネットミーティングを起動するHTMLとなれば、知っている人が少ないのもうなずける。電子メールを送信するリンクには「mailto:」を使う。ネットミーティングのインターネット電話は「calto:」。この機会に覚えておこう。

```
<A HREF="calto:ils.microsoft.com/fujii@hogehege.or.jp">
call me !</A>
```



正解者の方々：なし

記念日をカウントダウンする



誕生日や結婚記念日など誰にでも特別な日というのがあるはずだ。そして、待ち遠しい記念日を「～まであと何日」のように指折り数えたことはないだろうか。ニュース番組などでも、「オリンピックまであと952日」のようにカウントダウンする場面をよく見かける。こんな風にあおられると、なんとなくその日を楽しみにしてしまふから不思議だ。たとえば、ホームページでライブイベントなどを行う場合に、何日か前から当日に向けてカウントダウンすれば宣伝効果抜群だ。そこで、今月のTIPS第1弾として、作成者の手間が一切かからない便利な自動カウントダウンページの作り方を紹介しよう。

```
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
```

```
var now = new Date();
var Xday = new Date(2000,1-1,1);
countdown = (Xday.getTime() - now.getTime())/(24*60*60*1000);
countdown = Math.ceil(countdown);

if(countdown>0) document.write("あと",countdown,"日で2000年です");
if(countdown==0) document.write("今日から2000年です");
if(countdown<0) document.write("2000年になってから",-countdown,"
日が過ぎました</P>");
```

```
</SCRIPT>
```

Point

今回のTIPSのようなページを作る場合に、ページ作成者が毎日手でHTMLを書き替えるようでは手間がかかりすぎる。こんなときこそJavaScriptの出番だ。それでは内容を見てみよう。すべて<HEAD> </HEAD>の間に記述する。

```
var now = new Date();
var Xday = new Date(2000,1-1,1);
```

「var now」によって現在の日付を求める。次に「var Xday」で目的の日付を定義する。この値は左から年、月（マイナス1）、日をそれぞれ表す。つまり、「西暦2000年1月1日」に設定したことになる。ここで注意してほしいのは「月」の部分に必ず「-1」を付けること。「2000,1,1」では「2000年2月1日」になってしまう。また、年の部分は「YY」のように2桁にしてもいいのだが、

「00」では何のことが分からないので、ここでは「YYYY」のように4桁すべてが表示されるように指定する。次に、

```
countdown = (Xday.getTime() -
now.getTime())/(24*60*60*1000);
countdown = Math.ceil(countdown);
```

の部分で、目的の日付から現在の日付を引いた値を小数点以下を切り上げて表示するように指定する。最後に、日数とともに表示する日本語メッセージの部分記述する。目的の日付より前であれば

```
if(countdown>0)
```

以降のスク립トが適用されて「あと～日」と

表示される。当日にアクセスしたのであれば

```
if(countdown==0)
```

以降が適用されて「今日から」が表示される。目的の日付を過ぎてしまったら

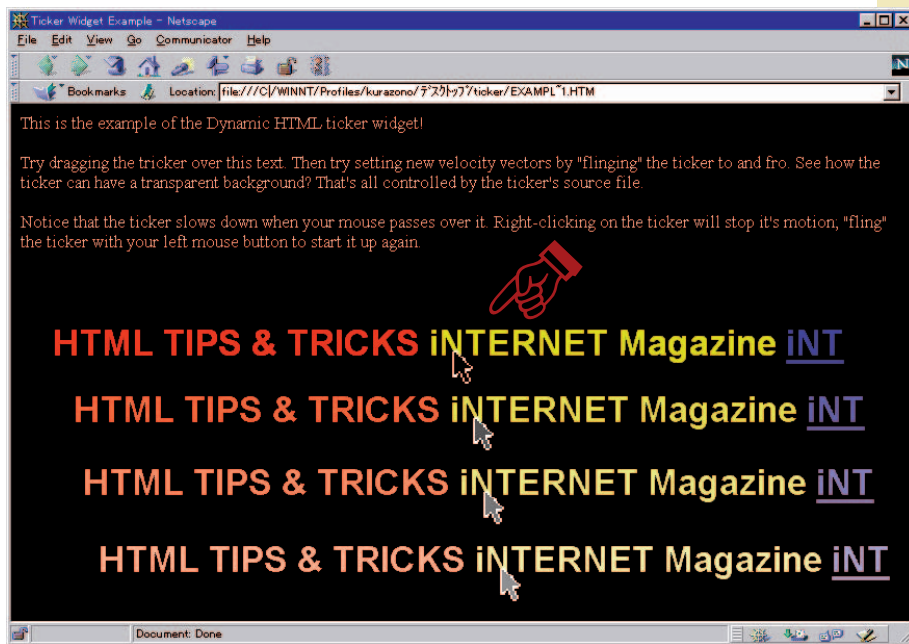
```
if(countdown<0)
```

以降によって「～日過ぎました」が表示される。ここまで用意すれば完璧だろう。



『誰にでもできるダイナミックHTML (その1)』

文字が流れるティッカーを作る



先月号のこのコーナーで「JavaScriptの記述を節約する」というTIPSを紹介した。あらかじめスクリプトを記述した「JSファイル」を用意して、これを各ページから参照するというものだ。このJSファイルだが、実はネットスケープ社に自由に使えるCOOLなサンプルがいくつか用意されている。今月はこれを入手して、難しいスクリプトを書かずにダイナミックHTMLを使ったカッコいいページを作ってみよう。まずは画面の左右に文字が流れる「ティッカー」に挑戦だ。マウスの操作で文字を移動させたり文字が流れる方向や速度を変えたりできる。数百行に及ぶスクリプトはもちろん記述不要。これはもう使うしかないはずだ。

サンプルファイル入手先：

URL <http://developer.netscape.com/library/examples/dynhtml/ticker/ticker.zip>



```
<HEAD>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript1.2" SRC="ticker.js"/></SCRIPT>

<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
function scroll() {
    if (navigator.appVersion.substring(0,1) == "4" &&
        navigator.appName == "Netscape")
    {
        myTicker = new Ticker(100,200,500,20,"content.html",1500,-80);
    }
}

</SCRIPT>
</HEAD>
<BODY onLoad="scroll();">
```

POINT

まずは、上記の入手先から「ticker.zip」をダウンロードする。これを展開すると現れる「ticker.js」をこれから作成するページと同じフォルダーに置く。実際のページには<HEAD></HEAD>の間に次のように記述する。

```
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript1.2"
SRC="ticker.js"/></SCRIPT>
```

ここで使われているスクリプトはJavaScript1.2の仕様に基づいている。まず、これを記述して、次に「SRC=」の値を先ほど展開した「ticker.js」にする。これだけでJSファイルに書かれたスクリプトをこのページで参照できるようになる。ただし、利用しているプロバイダーのWWWサーバーにJSファイルのファイルタイプ設定がされていないとこの方法は使えない。この場合は、「ticker.

js」ファイルをエディターなどで開き、すべての内容をこのページのHTMLにコピーすればいい。

```
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript1.2">
(ここにticker.jsの全文をコピーする)
</SCRIPT>
```

スクロールさせる文章は、実際に表示させるページとは別のHTMLファイルに記述する。文字の色を指定してカラフルにするのがポイントだ。「content.html」などの名前を付けてこれも上記のフォルダーに置く。また、このスクリプトはナビゲーター4.0でしか表示できないので、「if」以下に条件付けをしておく。さらに、ティッカーのサイズやスクロールの速度を指定するために次の1行を追加する。

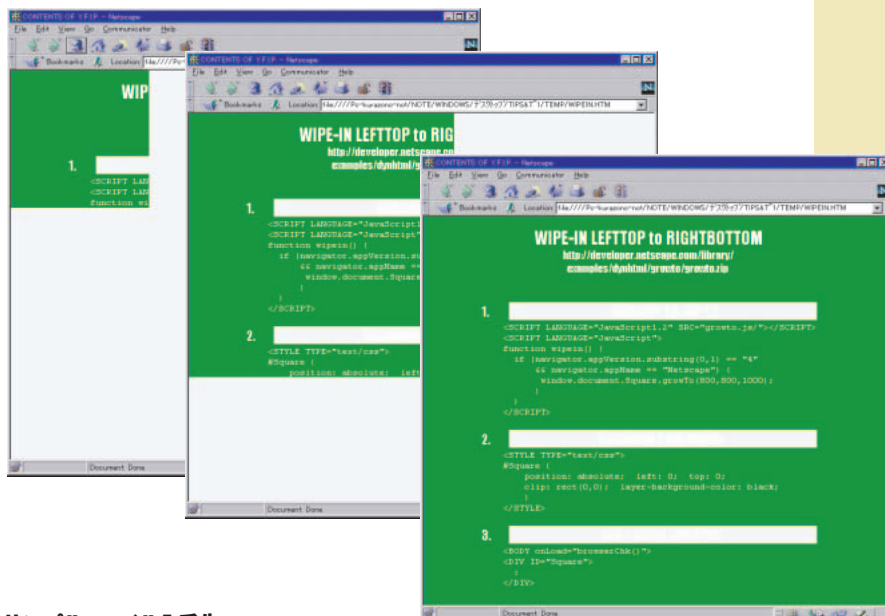
```
myTicker = new Ticker(100,200,500,20,
"content.html",1500,-80);
```

数字の意味は、左から、ティッカーの左端の位置、上端の位置、幅、高さ、スクロールさせるHTMLファイル名、文章の幅、スクロールの速度をそれぞれ表す。速度は1秒間に何ピクセル動かすかを表し、プラスなら左から右へ、マイナスなら右から左へ流れる。これで完成だ。最後に<BODY>タグに「onLoad="scroll();"」を加えればティッカーが動き出す。これで完成だ。



『誰にでもできるダイナミックHTML(その2)』

ワイプイン効果に挑戦



サンプルファイル入手先:

URL <http://developer.netscape.com/library/examples/dynhtml/growto/growto.zip>



```
<HEAD>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript1.2" SRC="growto.js"></SCRIPT>
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
function wipein() {
if (navigator.appVersion.substr(0,1) == "4" && navigator.appName == "Netscape")
{
window.document.Square.growTo(800,800,1000);
}
}
</SCRIPT>
<STYLE TYPE="text/css">
#Square {
position: absolute; left: 0; top: 0; clip: rect(0,0); layer-background-color: black;
}
</STYLE>
</HEAD>
<BODY onLoad="wipein();">
```

POINT

このTIPSは、スタイルシートで隠しておいた特定の領域を、時間の経過とともに徐々に表示させることでワイプインの効果を出している。基本的な仕組みは、先の「ティッカー」とほとんど同じだ。上記の入手先から「growto.zip」をダウンロードして展開すると「growto.js」というJSファイルが現れる。これをページに読み込んで、ファイルの中で定義されている「growTo()」というプログラムを呼び出す。

```
{ window.document.Square.growTo
(800,800,1000); }
```

growTo()の値は、左から、ワイプインする範囲の幅、高さ、1秒間に表示される画面の大きさ(ピクセル)を表す。幅と高さは1000程度まで大きくしておくと、広い画面で見たときにもきれいに

表示される。ティッカーと同様に「if」を使ってナビゲーター4.0だけで実行するように条件付けをしておこう。次に、ワイプインの始点を決める必要がある。ここではページ全体をワイプインの対象にしたい。そこでスタイルシートの出番だ。

```
#Square { position: absolute; left:
0; top: 0; clip: rect(0,0);
layer-background-color:black; }
```

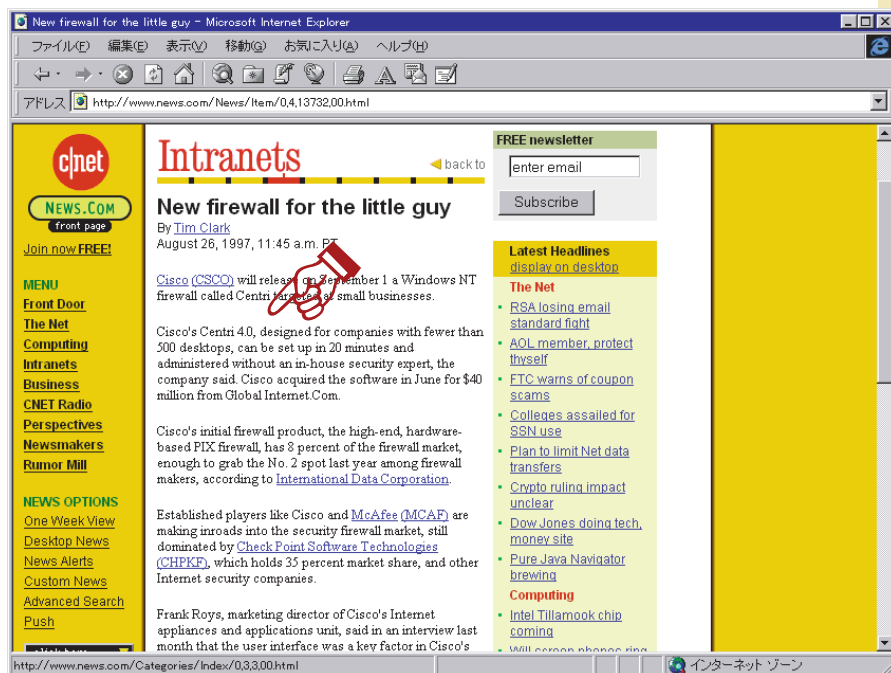
「Square」という名前でスタイル設定を作っておく。ポジションを固定(absolute)し、さらに左端の位置と上端の位置をともに「0」にする。これで画面全体をこのスタイルで埋め尽くすことができる(画面の一部をワイプアウトしたい場合にはこの数字で範囲を調節する)。さらに、「clip: rect(0,0);」で最初はこの部分に何も表示されな

先月号でも紹介した、背景色を徐々に変えていく「グラデーション」はもうマスターしただろうか。誰にでもできるダイナミックHTML第2弾は、さらに強力な画面効果として、スクリーンセーバーやスライドショーなどでおなじみのワイプイン効果に挑戦してみよう。ウィンドウの左上隅から右下隅に向かって、覆っていたカーテンをはがしていくようにゆっくりとページを見せていく演出だ。スタートページに持ってくれば迫力満点。ここでもネットスケープ社が配布しているJSファイルを使うので、ごく簡単なスクリプトを記述するだけでいい。もうダイナミックHTMLは難しくない。今すぐこのTIPSの醍醐味を体験しよう。

いようにしておこう。背景色はページのデザインに合わせて好きなものを選ぶ。ここまでできたら、<BODY>タグに「onLoad="wipein();"」を記述して、ページが表示されると同時にワイプインが始まるようにする。最後に、本文にスタイル「Square」を適用させるだけだ。全画面をワイプインさせるには、本文全体を<DIV ID="Square">と</DIV>でくくってしまえばいい。さて、どうだろうか。うまくカーテンが降りてくれただろうか。



行間を空けて読みやすいページを作る



URL <http://www.news.com/>



```
<STYLE TYPE="text/css">
```

```
body { font-size: 10pt; line-height: 20pt }
```

```
</STYLE>
```

Point

たった1行のスタイルシートで、文字中心のページが驚くほど読みやすくなる。内容もいって簡単。<HEAD> </HEAD>の間にこのタグを入れてみよう。

```
body { font-size: 10pt; line-height: 20pt }
```

まず「body」の意味だが、HTMLでは本文は<BODY>タグで囲むことになっている。この<BODY>を使ったときに「{ }」の中に記述した内容が反映されることになる。つまり、本文全体にこのスタイルが適用されるわけだ。たとえば、「body」を「a」に変えれば、<A>タグで囲まれた部分にスタイルが適用される。これがスタイルシートを使ううえでもっとも基本的なルールだ。では、「{ }」の中身を見てみよう。「font-size: 10pt」はフォントのサイズを10ポイントにすると

いう意味だ。スタイルシートではpt (ポイント)のほかに、in (インチ)、cm (センチメートル)、mm (ミリメートル)、px (ピクセル)のそれぞれの単位を使ってフォントサイズを自由に指定できる。次に、「line-height: 20pt」だが、これが行間を決める重要な属性タグだ。正確には、上下に並んだ2つの文字列のベースライン間の距離を表す。文字を読みやすくするには「line-height」の値を「font-size」よりも大きくするのがポイントだ。もっと分かりやすく、

```
font-size: 10pt; line-height: 120%
```

と記述してもいい。ノートに文字を書いている様子を想像してみよう。ノートには罫線が引かれていて、その間隔が文字の1.2倍のサイズになっているということだ。この方法なら、フォント

トップページを飾る派手な仕掛けも大切だが、本当に重要なのはやはり「情報」の部分だ。写真やグラフィックスを紹介するようなページならそれほど問題にならないが、ニュースやチュートリアルのような文字中心のページの場合、ある理由からどうしても読みづらくなってしまう。つまり、ウェブページの通常のレイアウトでは「行間」の隙間がほとんど空かないのだ。どんなに貴重な情報であっても、ぎっしりと文字が詰まっているのは読む気が失せてしまう。もっと読みやすくできないものだろうか。そこで、今月最後のTIPSとして、文字の多いページには欠かせない、行間を自由に操るスーパーテクニックを紹介しよう。

サイズだけを変更しても、それに合わせて適当な行間が確保される。ページ全体ではなく、特定の範囲の行間を調整したい場合は

```
<P STYLE="font-size: 10pt; line-height: 20pt">行間を指定したい文字列</P>
```

のように<P>タグの中にスタイル指定をして文字列を囲めばいい。これで行間を自由自在にあやつれるはずだ。



HTMLパズルに挑戦しよう

隠されたトリックを解き明かせ！



今月のテーマ

・スクリーンを制する・

IE4.0のアクティブチャンネルやネットキャスターはもう試してみただろうか。プッシュ型とか自分のチャンネルを登録できるとかの機能はさておき、最初に感動するのは「フルスクリーン」で表示される迫力の画面だ。自分がデザインしたページをフルスクリーンでユーザーに届ける。実は、チャンネルのコンテンツを作るまでもなく、通常のホームページでもこれが可能なのだ。そこで、今月は、この「フルスクリーン表示」に挑戦していただく。トリックが分かったらすぐに解答を送ってきてほしい。正解者にはダイレクトプラスを発行させていただきます。なお、正解は来月のこのコーナーで発表する。それでは頭をやわらかくして、今月のテーマ“スクリーンを制する”にチャレンジ！

「HTMLパズルに挑戦しよう」 宛先

正解が分かった人も、分からなかった人も、ご意見、ご感想など何でもOK、次の宛先にメールしよう。用件の欄には必ず
HTML TIPS & TRICKS
の1行を忘れずに。あなたの挑戦を待つ！

✉ ip-cdrom@impress.co.jp



QUESTION 1 キオスクウィンドウを出現させろ！

N
4.0



ダイナミックHTMLを駆使すれば、ページ内の文字や画像をカーソルで移動させたりクリックによってアニメーションを動かしたりできる。このような仕掛けを使う場面で活躍しているのが「キオスクウィンドウ」と呼ばれる補助画面だ。左の図を見てほしい。ツールバーもステータスバーもないシンプルなウィンドウが表示されている。画面スペースを有効に使えるうに、キオスク部分を独自のアプリケーションのように見せられる。実は、これがフルスクリーン実現への第一歩なのだ。リンクをクリックするとWWWブラウザの余分な部分を削ぎとったウィンドウが起動する。そんなHTMLを書いてみてほしい。



ウィンドウを開くスクリプトはたった1行だ。
余計なものを消すには……



QUESTION 2 フルスクリーンで表示させろ！

N
4.0



キオスクウィンドウはメインページの補助に使われることが多い。いわばメニュー的な窓だ。でも、アニメーションなどを駆使した派手なページはフルスクリーン表示で見せたい。スライドショー的なこともできるし、ゲームを作れば迫力満点だ。いよいよ1問目のキオスクウィンドウをフルスクリーンにすることが来た。注意すべき点は、ユーザーの画面の解像度だ。800×600ドットの人かもしれない、1280×1024ドットの人もある。誰が見てもフルスクリーンで表示されるようにするには、ウィンドウサイズを数字で指定したのではだめだ。ではどうするか？ 最新情報を収集してこの謎を解いてほしい。



考えていても答えは出ない。
ナビゲーターの最新情報があるのは……

[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレス R&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp